

奥井復太郎と永井荷風

—東京の都市空間と風景、音風景—

慶應義塾大学名誉教授・大妻女子大学名誉教授 山岸 健

1 目的

都市研究者、奥井復太郎と奥井が注目していた作家、文筆家、永井荷風、両者の業績、作品、立場、方法（道、方向）に注目しながら、都市、都市空間、大地、生活世界である東京へのアプローチを試み、都市、都市社会研究における視点と方法、方向性をめぐって新たな展望を検討することを目的とする。

2 方法

以上の目的を達成するために奥井復太郎と永井荷風の業績と作品、東京にかかわる文学作品とエッセー、さらに絵画作品などに注目し、それらを検討すること、東京の大地と地形、歴史と現状へのアプローチを試みることで、この研究の方法である。

3 結果

こうした研究の結果、都市的社会的な世界、人びとの日常生活、大地と都市空間とともに風景と音、音風景がクローズアップされてきたのである。

4 結論

都市へのアプローチ、都市空間、東京の研究、観察、考察においては、〈風景〉、〈音風景〉という立場、方法に都市研究の意義があることを認めることが可能である。感性と人間へのアプローチに都市研究の方法を見ることができる。社会学は独自のトポス（立場、視点）であり、ホドス（道、方法、方向）なのである。

文献

山岸健・山岸美穂、2008、『日常生活と旅の社会学』慶應義塾大学出版会